

## 第6学年 国語科学習指導案

平成30年9月12日（水）2校時

6年教室 佐藤 三和子

### 1 単元名 海のいのち

### 2 単元の目標

物語が自分に最も強く語りかけてきたことを短い言葉でまとめることができる。

### 3 学級の実態

本学級の児童は、Q-Uの結果から学習意欲・友だち関係・学級の雰囲気とも高得点で、バランスがとれている。NRTの学力調査では個人差はあるものの国語の平均は高い。特に読む領域では読み取りの力は身につけている。しかし、授業中に積極的に自分の意見を言える児童は限られており、どの教科においても友達の意見を踏まえて自分の考えを発表することにもあまり慣れていないため、意見交流は活発ではない。

### 4 学習指導計画

時	主な学習計画
1・2	学習課題と活動の流れを確かめ、物語が自分にもっとも強く語りかけてきたこととらえるために、学習計画をたてる。
3～7 本時6	物語の山場で起きる変化を読み取り、物語が自分に最も強く語りかけてきたことについて考える。
7・8	物語が自分に最も強く語りかけてきたことをまとめ、話し合う。

### 5 研究主題を受けて

#### (1) つけたい力

人物の心情の変化と理由を読み取り、自分の考えをまとめる。

#### (2) 主体的・対話的・深い学びの実現に向けて

##### ○主体的な学びのために

初発の感想を基にして、単元を通した共通の課題と個々の課題を設定することで、課題解決に向けた意欲付けを図る。

##### ○対話的な学びのために

個の学びの時間を確保することで、教材との対話と自分との対話を大切にしたい。自分の考えを十分に理解した上で、友達との意見交流を通してより深い読み

取りができるようにしていく。

##### ○深い学びのために

人物の行動や会話などの叙述に即して登場人物の心情を読み取ることができるように、表現の工夫に着目して読み、理由を述べられるようにする。また、単元の目標である「物語が自分に最も強く語りかけてきたこと」については①山場の前②山場③終わりの場面④学習を通しての4回まとめさせ、自分の考えの広がりや深まりを確かめられるようにする。

### 6 本時の目標と評価

【目標】○「山場」での太一の心情の変化を読み取り、なぜ変化したのかを考えることができる。 [読む]

【評価】○人物と人物との関係や表現の工夫を手がかりとして、中心となる人物の心情の変化とその理由を考えながら読んでいる。 [ノート・発表]

### 7 本時の研究の視点と手立て

#### 視点1 主体的に学ぶための『学びのプラン』

##### ○ 単元を通した学習課題に沿った、個の学習課題の設定

学習計画に沿った学習内容を確認するとともに、本時の場面の中に自分の課題を設定した児童のものを取り上げ、意欲付けを図る。

#### 視点2 対話的に学ぶための『学びのスタイル』

##### ○ 自分との対話・他との対話をするための活動の工夫

学習を通して読みを深めていくために、前時までの自分の考えと比較しながら読ませたい。そのために、ノート・教科書への書き込みをサイドライン・吹き出し・色づけなどによって工夫し、1時間ごとの読みの結果を自分で確認できるようにする。発表するときは、友達の考えと比較しながら、似ている・参考にして考えた・違うなどの視点も加えて話せるようにする。

#### 視点3 深い学びのための『学びのコーディネート』

##### ○ 深い学びにつながる発問構成の工夫

「太一はなぜ瀬の主を殺さなかったのか」の話し合いにおいて、子どもの発表から取り上げる言葉を決めておくことで、そこからさらに問いかけ、より深い読み取りができるように発問構成を工夫する。

4 物語が強く語りかけてきたことをまとめる。(10分)

「山場の場面を読んで、物語が強く語りかけてきたことを短くまとめましょう。」

※第3時目で書いたまとめを振り返らせ、参考にしたり、自分の考えに変化が現れたかどうかを確認したりしながら書かせる。(視点2)

1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。(5分)

四の場面を読み、前時までに読み取った太一の心情を確かめる。

「今日は山場の場面を学習します。瀬の主に出会ったときの太一の心情の変化をとらえて、物語が強く語りかけてきたことを考えましょう。」

五の場面を読む。※心情が表れているところにサイドラインを引きながら読ませる。

※この場面の太一の心情などについて自分の読みの課題を持っている児童がいる場合は、意図的に指名して発表させ板書する。(視点1)

※ 心情の変化をとらえやすように、登場人物の関係図を簡単に図示しておく。

予想される児童のまとめ(初発の感想後に記入予定)

物語が強く語りかけてきたこと ②

なぜ、瀬の主を殺さなかったのか？

「おとう、ここにおられたのですか。」

夢・・・かたき、倒したい

瀬の主と太一の関係

児童の課題

④瀬の主に出会ったときの太一の心情の変化をとらえ、物語が強く語りかけてきたことを考えよう。

海のいのち  
五の場面(山場)

2 瀬の主に対する太一の心情を読み取る。(15分)

「瀬の主と太一の関係が分かる言葉や表現を見つけましょう。瀬の主に対する心情が変わったところには二重線を引きましょう。」

予想される言葉

「夢」「岩そのもの」「追い求めてきたまぼろしの魚」「父を破った瀬の主」「殺されたがっている」「おとう、ここにおられたのですか。」

※見つけた言葉を発表させた後に、その言葉や表現から分かる心情をノートに書かせる。

※心情を発表させる際は、友達との意見と比較して話せるように、意図的指名をする。(視点2)

「太一が追い求めていた夢とは何でしょう。」

※「夢」を取り上げることで、父を破った瀬の主をしとめようとしていた太一の心情を確認する。(視点3)

3 太一は、なぜ瀬の主を殺さなかったのか話し合う。(15分)

「太一は、なぜここで瀬の主を殺さなかったのか、書きましょう。根拠になる文も説明できるように教科書に印をつけましょう。」

※根拠となる文の中で、教師側が取り上げる言葉を決めておく。その言葉から発問を構成し、深めていく。(視点3)

「一人前の漁師」「千びきに一びきでいいんだ。」「おとう」「海のいのち」「海で生きる」「海に帰る」

★人物と人物との関係や表現の工夫を手がかりとして、中心となる人物の心情の変化とその理由を考えながら読んでいる。(ノート・発表)